

# 榎野川干潟

## 自然再生推進計画調査（その他地域・地方公共団体）

### 流域単位での連携協働による調査・検討

#### 榎野川について

榎野川は、山口市宮野地区等を源流として、山口盆地を南西に流れ、山口市内、小郡町を經由して周防灘の山口湾に流入しています。特に、榎野川河口域から山口湾においては、西瀬戸内地域有数の広大な干潟（約300ha）が広がり、渡り鳥のクロスロードであるとともに、カブトガニの生息地にもなっており、全国的にも非常に重要な地域です。

#### 榎野川の現状

山口湾奥部の干潟（約100ha）では、流域人口の増加に伴う水域の富栄養化、上中流域からの浮泥の流入等により、ヘドロやカキ殻（約55ha）の堆積、アマモ場の減少が見られます（図1）。



カキ殻の堆積状況

また、山口湾は、かつてはアサリの好漁場でしたが、その漁獲量は、昭和60年には約462トンに及んだものが、平成3年以降はほとんど採れなくなっています（グラフ）。

こうした例のように干潟生態系等の改変・改質が生じています。



カブトガニ

#### 自然再生推進計画調査

山口県では、平成14年度から、学識経験者、住民、事業者、関係団体（漁協等）NPO等から構成された「榎野川干潟地区自然再生推進計画調査委員会（呼称：やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会）」において、調査の方針や方法等に係る検討協議を行ったうえで、関係機関が連携・協働して、調査を実施しています（図2）。



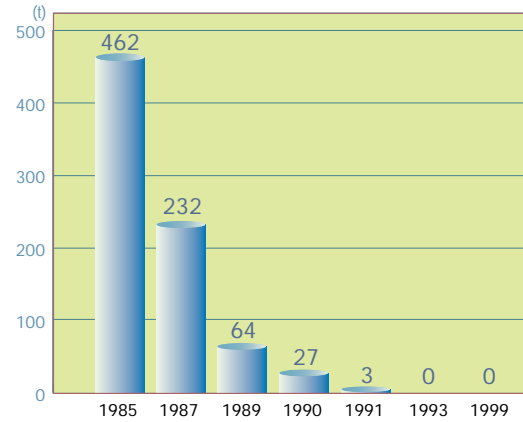
アマモ場



委員会



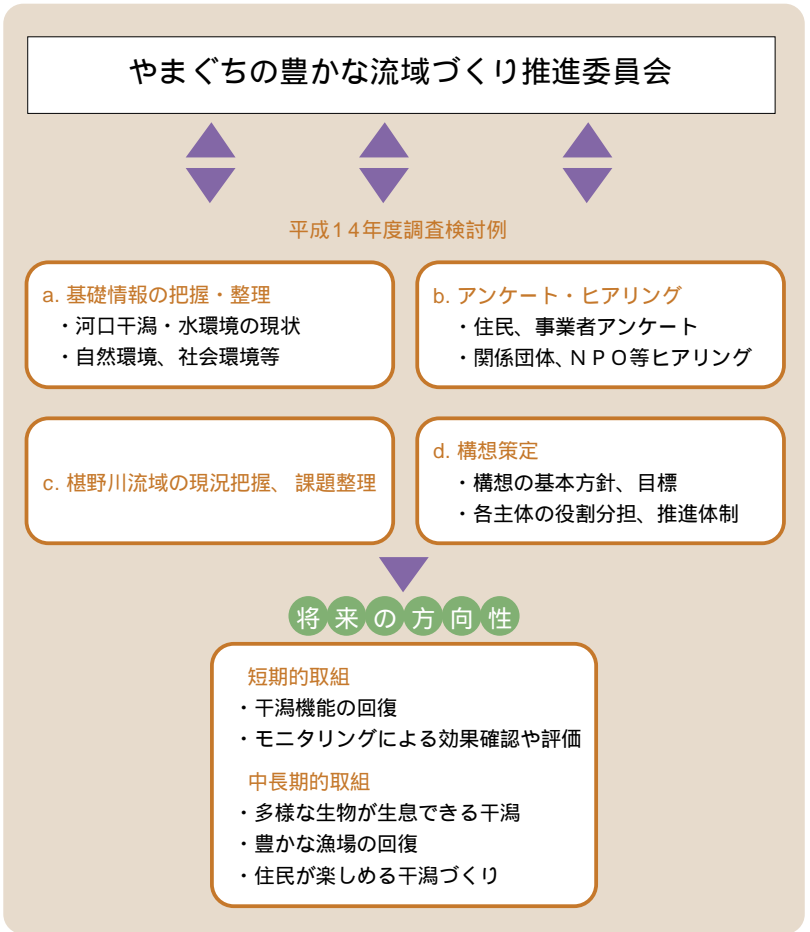
山口湾のアサリ類漁獲量（グラフ）



干潟とカキの広がり（図1）



自然再生推進計画調査（図2）



協働・連携のイメージ

